

副議長所信表明

市民ネット倉部光世です。

この度、菊川市議会副議長選挙の実施に先立ちまして所信を述べさせていただきます。2020年の新型コロナ感染拡大から3年、様々な状況の変化がありました。マスクの着用に始まり、人との接触制限、移動制限、大勢での会食機会の減少など生活様式の変化、リモートワークなど働き方の変化があり日々の生活に定着しつつあります。そのような中でも、今まで進まなかったDXの推進などプラスの面もありましたが、ウクライナ危機による不透明な世界情勢、食品、電気料金等を含む様々な値上げ、上がらない賃金、その上、出生数の年間80万人割については予想を上回る速度で進み将来に対する予測は大きく変化しています。そのような中だからこそ、これからは今まで以上に必要不可欠な制度、政策を見極め、より効果の高いものを選んでいかななくてはなりません。その為に、市民の意思受け公開の議論を通じて決断する必要があり市議会の役割を更に向上させていくことが求められます。菊川市議会は、議会基本条例の制定以降、議会の機能強化、情報共有、住民参加について継続して見直しを行い前へ進んでまいりました。ここ数年は、全議員が参加して委員会活動を行い、チーム議会として活動を進め、執行部への予算決算特別委員会、各常任委員会での調査研究からの意見書の提出を行うなど議会としての役割も向上してきました。議会改革度調査でも全国50位となりマニフェスト大賞で躍進賞として認められました。しかしながら、まだまだ見直していく課題は多くあります。今期の議会も2年の折り返しを迎えました。後半の2年間で更なる議会活動の充実を目指さなくてはなりません。令和5年度は、議会アンケートの実施から議会基本条例の見直しを行い最終年へ向かう菊川市議会にとって重要な年となります。更なる個々の議員の資質・品位の向上により、市政の監視役としての議決責任、市民への説明責任を果たしていかななくてはなりません。

副議長は、議会の代表者であり会議全体をまとめる議長の補佐、場合によっては議場での代理と務めるとともに、様々な外部会議への出席、近隣市町議会との調整、連携等の役割があります。また、議会改革の推進やこども議会の運営のリーダーとして、議会だより編集のオブザーバーとして等、様々な議会をけん引する役割を果たす必要があります。これからの後半2年は特に計画的に議会活動を進めなくてはなりません。議員研修、原子力勉強会、議会アンケートからの基本条例の見直し、議会予算決算サイクルについては決算重視のサイクルの確立を目指す必要があります。

私は、10年の議員活動で、常任委員長他各委員会の委員長、副委員長を経験させていただきました。この経験を活かし、議長を補佐し、各議員の皆様、事務局とも協力し、菊川市議会が、新しい時代に求められる市民福祉の向上に向かうチーム議会となるよう尽力して参ります。

1. 議会基本条例、特に解説部分の見直しと要綱の見直し改正。
2. 重要事業を抽出した決算審査を実施、予算決算特別委員会の決算審査を充実し、予算へ反映していく政策サイクル確立。
3. 市民への広報広聴の充実、議会独自のホームページやラインの活用、委員会生中継、政務活動費の領収証ホームページ掲載など不足している情報公開の推進。

4. 新しい子ども議会の運営、議会の出前講座、議会報告会の見直しを行い、議会活動への理解を進め、市政への参加を自分事と考えられる市民意識の向上を図る。
5. 議員研修の充実を図り、個々の議員のスキルアップを進め次の議会へ繋げる。

主には以上のような議会活動のさらなる充実を図り、議長を補佐する副議長の職を全うしていきたいと考えております。

以上、副議長立候補表明の演説とさせていただきます。